



# 近松作品の魅力

【日時】

2017 年

1 月 28 日 (土)

18:00 ~ 19:30 (開場 17:30)

【定員】

200 名 (事前申込は不要)

【場所】

高知県立大学 永国寺キャンパス  
教育研究棟 1 階 A101 講義室

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



『津国女夫池』を中心に

【講座概要】

近松晩年の作品には、本来的には善良で律儀な一人の人間が自分自身の弱さに足をすくわれて、心ならずも犯してしまった「悪」についての関心が顕著に見られるようになっていきます。

そこには、作者近松の、人間に対する洞察力の深まりを認めることができるでしょう。

本講座では、享保 6 年 (1721) 上演の『津国女夫池 (つのかにめおといけ)』中で作者が描いた登場人物たちの言動を紹介しながら、その特色を確かめてみたいと思います。



つのかにめおといけ



【講師】

原 道生 氏

HARA Michio 明治大学名誉教授

1936 年東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。1981 年より 26 年間明治大学文学部に勤務、その間文学部長、図書館長を務めた。専攻は演劇を中心とする日本近世文学。

著書に『近松門左衛門』(新潮社)、『近松浄瑠璃の作劇法』(八木書店)、『古典にみる日本人の生と死 一いのちへの旅一』(笠間書院、共著)、『近松浄瑠璃集』(岩波書店、共著)等がある。『近松浄瑠璃の作劇法』により 2014 年、第 46 回日本演劇学会河竹賞、第 36 回角川源義賞を受賞。



母の  
土俵を  
先の夫の死  
とよむ  
おん社  
おん



高知県立大学  
地域教育研究センター

高知市永国寺町 2-22

永国寺キャンパス 地域連携棟 3 階 地域教育研究センター

☎ 088-821-7125

✉ aeru@cc.u-kochi.ac.jp

# 名シーン抜粋 『津国女夫池』 三段目

〔近松全集第十二巻〕より



我を討ずはおのれ武士は立まいが。いかにも討れしも親討たるも親。おやの恩をわきまへしつて武士がた、ずばた、ぬ迄と。腰の廻りかなくりぬき大小ぐはらりと投出す。母立あがり刀追取するりとぬいて声をかけ。夫の敵文次兵衛恨の刀請とれと。飛か、つてまつかうみ、の根迄すんはと切付。サア敵討の義は是迄。一かく殿とはたつた半年のなじみ。なふおまへとははや廿二年のなじみなれ共。武士の娘に生れたいんぐは。様々の御くらう請恩しらず人でなしの此女。犬ちく生と思ふてゆるして下されと。(中略)



枕をならべはだをふれし後の夫。てい女の道をとるゝと思ひしは皆道にそむきしか。神にくまれ仏にすてられ。ゑんま王

につみをとる、時。いかなふるなのべんぜつも何といひぬけのがれうぞ。ちく生の身の果見おいて娘あやかるなど。切先くはへまつさかさま池へだんふと飛入たり。

人々ははと泣きはればよるめきながら文次兵衛。男をがいし其つまをめとるちく生ぎんがいの此からだ。やくなうづむなすつぼんの。餌食になれとならびの池へどうと飛込。ゆん手のかいな三木の進しつかと取。

とてもならばお腹めせ御かいしやくは私と。引あぐればくはつとねめ付。いはれぬきもせい。おのれが世話はみだい若君の御ことなうで。日本に用はなし。兩人忠義を

わする、など水中にて腰刀。ぬくよりはやく我と我うでのつけねを切てはなす。どうは水そこぐがにとめたる其かいなき。

枕をならべはだをふれし後の夫。てい女の道をとるゝと思ひしは皆道にそむきしか。神にくまれ仏にすてられ。ゑんま王につみをとる、時。いかなふるなのべんぜつも何といひぬけのがれうぞ。ちく生の身の果見おいて娘あやかるなど。切先くはへまつさかさま池へだんふと飛入たり。人々ははと泣きはればよるめきながら文次兵衛。男をがいし其つまをめとるちく生ぎんがいの此からだ。やくなうづむなすつぼんの。餌食になれとならびの池へどうと飛込。ゆん手のかいな三木の進しつかと取。とてもならばお腹めせ御かいしやくは私と。引あぐればくはつとねめ付。いはれぬきもせい。おのれが世話はみだい若君の御ことなうで。日本に用はなし。兩人忠義をわする、など水中にて腰刀。ぬくよりはやく我と我うでのつけねを切てはなす。どうは水そこぐがにとめたる其かいなき。

## ◎三段目 あらすじ

主人公・造酒之進(みきのしん)と恋仲の清滝(きよたき)は、將軍義輝の御台所を守り、造酒之進の父・文次兵衛をたよる。そこで清滝の父母が造酒之進の両親であることが判明。兄妹で契ったことに苦しんだ二人は、身投げを決意する。

しかし文次兵衛は、かつて友だった駒形一学(いちがく)という男を闇討ちしたと告白。一学には先妻の子(造酒之進)と美しい後妻がおり、その二人を引き取ったと語り、造酒之進と清滝は真の兄妹でないことを明かす。文次兵衛は年若い後妻に恋慕し、殺人を犯していたのだった。

長年連れ添ってきた夫・文次兵衛が前夫の仇と知った妻は、文次兵衛に一太刀だけ報いる。そして夫婦はそのまま入水して果てる。

しはしの敵も来世のめうと。しはしの兄弟此世のめうと名は永き世のめうと池。いけの玉もをなき玉の形見に。しけるあしまこも語つたへて言のはのよるへの。水とぞ成にける。

三段目 結び

## 津国女夫池

つにくに めおといけ

晩年の近松門左衛門による人形浄瑠璃作品。全五段。室町幕府の將軍・足利義輝殺害にまつわる史実と、大阪天満にあった夫婦池の伝説をおりませた時代物。義輝に謀反を起こす愚の一派と、將軍家を守り世の中の秩序回復を図ろうとする善の側の攻防が展開される。目玉となる三段目では、將軍の御台を守る冷泉造酒之進とその父・文次兵衛の起こす因果悲劇が描かれる。

## 近松門左衛門

1653 ~ 1724

江戸前期の浄瑠璃・歌舞伎狂言作者。五人兄弟の次男として武家に生まれる。浄瑠璃『世継曾我』『出世景清』で世に認められ、歌舞伎狂言『傾城仏の原』、世話浄瑠璃『曾根崎中』『冥途の飛脚』『心中天網島』など後の世に残る作品を数多く生み出した。

